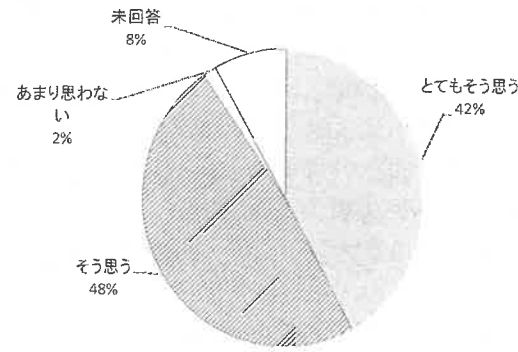


- 3 今日の話し合いから、大玉村の未来のために自分で何か始めてみたいと思ったか
- 「とてもそう思う」42% 「そう思う」48% 「あまり思わない」2% 「未回答」8%
 - 「自分の役割を生かして、今やれることを充実させたい」という意見が多くみられた。
 - 地域住民、保護者、CS委員、教職員、その他など、様々な視点からの意見が出されたため、参加者それぞれがその内容を受け止め、明日からの活動や取り組み等に生かしていこうという考えが多く出された。



4 今後のCSで取り組んで欲しいテーマ、本日の感想等

(1) テーマについて

- 本年度と同様のテーマ（大玉村をよくするためには、住みよい大玉村とは）
- いかに交流人口を増やすか、いかに魅力ある村づくりを進めるか
- 大玉村の魅力について
- 大玉村で特化できるものは何か
- 高齢化社会を乗り切るには
- 障がい者教育について
- 米に関する製品づくり
- メディア、SNSの利用について

(2) 全体的な感想

- 「子どもたちの提案を一つでもいいから実現させたい」という考えを持つ参加者が多かった。
- 名称の変更、参観のみの参加等は確実に効果が上がったようである。内容的に満足している参加者も多く、今後も参加したいという意見も見られた。
- 保護者の参加が少なかった。多く参加できる内容やテーマ、講師の選定についても工夫を望む意見も見られた。
- 参加者の意識の高さが顕著になってきており、他市町村からの出席者も驚いていた。(教育、村づくり等に関する意識の高まり)

令和2年3月17日発行

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

(事務局：大玉村教育委員会内 連絡先：48-3138)

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会の会議録等は、大玉村ホームページに掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。
 (「トップページ」→「教育・文化」→「夢を育てるおおたまの教育」で検索してください。コミュニティ・スクール等に関する様々な情報が載っています。)

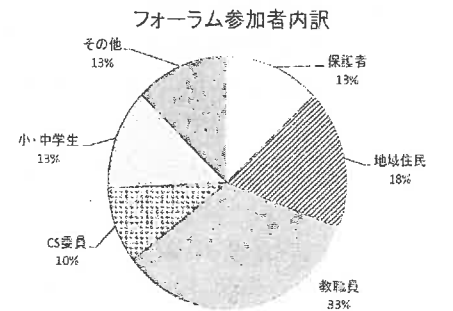
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小・中学校が休校になってから2週間程が経過しましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。現在のところ、普段通りの生活を取り戻すのはまだ難しいようで、一人一人が体調管理と感染予防に努めることが大切な時期と思われまます。子どもたちも不自由な生活でストレスを抱えているとは思いますが、ご理解とご支援の程よろしくお願いたします。

【第1回コミュニティ広場(第11回教育フォーラム)を開催しました】

令和2年2月1日(土)改善センターに於いて、第1回おおたまコミュニティ広場(第11回大玉村教育フォーラム)が開催され206名の方に参加いただきました。

第1部の小中学生の発表では、小・中学生が学習している大玉村の魅力やこれからの大玉村をどのようにしていきたいかのプレゼンテーションを行いました(参加者の共感と賞賛を得ていました!)。また、大玉村長さんや議会議長さんにも発表をお聴きいただき、子どもたちの提案に対する講評をいただきました。

第2部では、第1部の発表を受けて、『子どもたちが考える大玉村の未来について語り合おう～地域・家庭(保護者)・学校ができることややってみよう～』のテーマで、小グループに分かれてそれぞれ立場の違う方々が様々な視点で自由に意見交換をしました。次代を担う子どもたちのため、家庭・学校・地域がより一層力を尽くしていかななくてはならないと感じる機会となりました。



第1部 小・中学生の発表(提案)の概要

1 玉井小学校発表より

- イベントや料理でお米のよさを発信する村
 - ・ 米フェス(長岡市、高知県高幡、土佐の豊穰祭)の事例紹介。おにぎり無料配付等のイベントを行っている現状を発表。
 - ・ 熊本県の高校生が開発したコメロンパン(米粉使用)の事例紹介。
 - ・ おおたま～ぶるキャラメルパン(向山製作所生キャラメル使用)の提案。
 - ・ 現状の問題点として、「米のよさが伝わっていない」「米を中心としたイベントが少ない」ことをあげ。「米フェス」の開催と大玉産米を使っていろいろな料理を食べてもらう提案があった。
- 自然を生かしたイベントで人とつながる大玉村
 - ・ 現状の問題点は「日本一美しい村なのに観光客が少ないこと」「面積が広いのに人口が少ないこと」。
 - ・ 「キャンプ祭り in 大名倉山」の提案がある。大名倉山を登る途中で、村の特産品などを味わい、頂上でキャンプする提案があった。子どもも大人も楽しめる祭りになりたいと提案。
- 米を使った商品で地産地消する村
 - ・ 南魚沼市のオニギリプロジェクト、スペインの米を使ったデザートの実例紹介
 - ・ 米よりパンを食べる量が多い現状や、食品ロスが多い現状紹介。
 - ・ 大玉村の米を使ったおにぎり(地産地消、地元の具を使用)
 - ・ 米を使ったデザート



2 大山小学校発表より

- さまざまな不自由（足が不自由な人、目の不自由な人、耳が不自由な人）について調べたことを発表。また、障がいのある人を支える仕事について調べた内容の発表。
- 障がいのある人もない人も自立が大切であり、交流できるような、大きな公園や大型の交流施設があるとよいとの提案。
- 障がいのある人が不安なく、自由に出かけることができるように村全体のバリアフリー化が必要であるとの提案。



3 大玉中学校の発表より

○ 1年生の発表

- ・ 大玉の魅力は「人」である。村を愛する気持ちや中学生に込める期待が大きいことが分かった。
- ・ 伝統工芸をつないでいくために、作り手の思いを基にパンフレットを作成した。
- ・ 新製品の提案 → アニマルウッドキット、THE鍋敷き（わらで作成）、くるみ皮コースター、OTAMAランプ（麦わら・チラシ・竹ひごで作成）



○ 2年生の発表

- ・ SDGs（持続可能な開発目標）の学習を通して、その視点からの提案があった。
- ・ 指標11「住み続けられるまちづくりを」について
 - 魅力を生かした職場づくりが大切なのではないか。
 - 大玉村は農業である。余った食材を再利用したり、「おおたま食の広場」を開催してはどうか。
- ・ 指標8「働きがいも経済成長も」について
 - 消費者の話聞く機会を設ける必要があることや村内企業の協力体制をつくることで、新しいものが開発され、村の活気につながるのではないか。

第2部のフリートークでのご意見から

幼稚園、小学校、中学校の先生方や保護者、地域住民、小・中学生が混在したグループを作り、『子どもたちが考える大玉村の未来について語り合おう～地域・家庭（保護者）・学校ができることややってみよう～』をテーマに話し合いました。フリートークには1時間ほど時間を確保しましたが、どの班でも熱心な熟議が展開され、「もう少し時間が欲しかった。」との声も寄せられました。アンケート結果をお知らせします。

【フリートークで出た主なアイディア】

① 大玉の農業のPRをする。（日本全国へ、世界へ）

- 「おおたまのおいしい米」について
 - ・ ブランド米化
 - ・ 米粉を利用したパン作り
- イベント（米フェス）の開催（直売所を中心に）
- 新しい米料理、米デザートの開発
- 米以外の農作物と商品化（新しい特産品、新メニューの開発）
 - ・ キャラメルパン
 - ・ スイーツ開発（ジュース、アイス他）



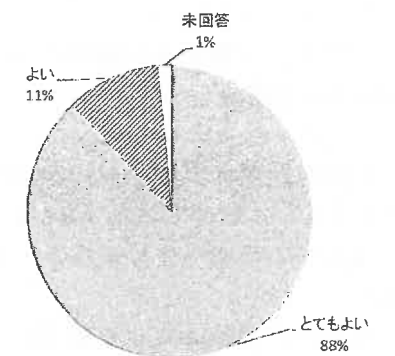
② 活気と潤いのある村づくりのために

- 環境保全（自然環境、見応えのある景観他）
- 観光資源の開発（宿泊施設を増やす、フラワーロード、大名倉山登山道整備、名所・旧跡めぐりツアー、温泉、スキー、地産地消他）
- 施設の充実・設置（大型公園・キッズパーク・広場などの建設、スマートIC、駅他）
- イベント・体験（キャンプ祭り、ウォーキング大会、フェスティバル、今ある自然を生かした取り組み、登山教室、アウトドア教室、伝統工芸・農業・薪割り体験他）
- 人・教育（おおたま学園コミュニティ・スクール、確かな学力、SDGs、郷土学習、大玉の良さを学ぶ学習、行事の精選・統合、福祉教育他）
- 働く場所の確保（企業誘致、交通インフラ整備、未来の職業、農業体験農家他）
- 福祉（バリアフリー化、健常者・障がい者・高齢者が共生するまちづくり、支援者・ボランティアの育成他）
- 情報発信（大玉の魅力発信、小中学生の発表の発信他）
- 村民・他地域との交流促進（みんなが利用できる施設〈大型公園、広場等〉、世代・業種を超えた意見交流会他）
- 後継者不足解消（農家の現状理解、民俗芸能・伝統工芸継承者他）

アンケートの集計結果について

1 第1部小・中学生の発表（プレゼン）について

- 「とてもよい」88% 「よい」11% 「未回答」1%
- 中学生の学びやアイデアのよさを賞賛する内容の記述が多かった。（「目線が新鮮」「現状をしっかりと捉え、自分たちの世代で何が出来るか、そして次世代に何を残すかも踏まえた発表」等々）
- 参加者に対して、本村の小・中学生が積極的に学んでいる姿、学校の優れた取り組み等をアピールするよい機会にもなったと思われる。



2 第2部フリートークについて

- 「とてもよい」64% 「よい」28% 「あまりよくない」1% 「未回答」7%
- 本年度は1時間程確保されていたので、各グループで「じっくりとテーマについて熟議できた。」という感想が多かった。
- 各グループの構成（地域住民、教職員、CS委員、小・中学生、その他）もバランスがとれていたため、「それぞれの立場から意見が出され参考になった。」「自分以外の意見を聞くことで、新しい意見も生まれて、課題もはっきり見えてきた。」等の感想が出された。
- 今回は小・中学生が参加したが、「地域の方々と話すとてもいい機会になった。」「自分の意見を大人の人に聞いてもらえて嬉しかった。」等貴重な経験をする事ができたことを素直に喜ぶ姿があった。
- 各グループの人数を5、6名にし、個々が意見がもっと出せるよう編成を工夫する必要があるとの意見もあった。（場の設定等課題もあるが…）

